

海外安全対策情報（2019年7月～9月）

1 社会・治安情勢

(1) テロ等の傾向

ア パキスタンのテロ事件発生件数はパキスタン軍等によるテロリスト掃討作戦により、2009年をピークに減少傾向にあるものの、引き続きテロ案件は発生しており、警戒を要する。テロの件数等は前期（2019年4月～6月期）に比して13件減少（66件→53件）、死者は48名減少（136名→88名）、負傷者は18名減少（239名→221名）した。（パキスタン平和研究所調べ。）

また、2017年2月から開始されている軍及び治安機関等による対テロ作戦（ラッドウル・ファサード（Radd-ul-Fasaad・脅威の除去））は引き続き国内各地で実施されており、テロリストの検挙、武器等の押収等一定の成果を収めている。今期においても、単独又は少数犯による自爆、襲撃及び簡易爆弾（IED）攻撃が主要なテロの手段として見られ、その標的の多くは軍・治安当局とその関連施設であるが、テロ組織の中には中国・パキスタン経済回廊（CPEC）や中国関連施設への攻撃を企図する組織もある。

7月23日、バロチスタン州クエッタにおいて、爆発物を設置した自転車が遠隔操作で爆発し、少なくとも3人が死亡、18人が負傷した。犠牲者はすべて民間人だった。

7月30日、バロチスタン州クエッタにおいて、パキスタン・タリバン運動（TTP）のテロリストが、警察署に駐車中の警察車両付近で、爆弾を設置したバイクを遠隔操作で爆発させ、5人が死亡、30人以上が負傷した。

8月16日、バロチスタン州クエッタ近郊のモスクにおいて、爆弾が爆発し、4人が死亡し20人が負傷するなど、各地においてテロが発生した。

そのほか、7月3日には、カシミールのパキスタン・インド管理ライン（LoC）において、LoCから数メートルの場所にある、アーザード・ジャンムー・カシミール（AJK）BarnalaのChambセクターにおいて爆発が発生し、パキスタン軍兵士5人が死亡、1人が負傷するなど、依然として両軍による局地的な衝突が断続的に発生しており、多数の民間人が死傷している。

イ 旧連邦直轄部族地域（FATA）を含むKP州においては、7月21日、KP州デラ・イスマイル・カーン（Dera Ismail Khan）において、パキスタン・タリバン運動（TTP）による自爆を含む複合攻撃が発生、10人が死亡、30人以上が負傷した。

9月1日、KP州バジョール部族郡 Nawagai 郡において、道路脇に仕掛けられた遠隔操作爆弾が爆発し、反ミリタントの平和委員会元メンバー1人が死亡するなど、軍又は治安当局とその関連施設をターゲットとしたテロが発生した。

また、都市部や地方別に関わらず、治安当局によるテロリストの拘束事件及び武器・弾薬等の押収事件も多く確認された。こうした状況から、治安当局による徹底した取締りが行われた一方、都市部においてもテロの脅威は存在し、8月21日、イスラマバード市内I-11地区（大使館から南西に約15km）において、警察検問所に対する銃撃テロ攻撃が発生、警察官2人が死亡、1人が負傷するなど、テロの潜在的脅威は依然として存在すると考えられる。

(2) デモの傾向

当地では、主に金曜礼拝後、各種団体による政府機関に対する労働環境改善要求等の抗議活動が行われる傾向にある。また、今期においては、8月5日、インド政府による、インド側カシミール地域の現状変更措置に抗議し、「カシミールへの連帯」を標榜して、全国各地でデモが繰り返された。パキスタン政府は、毎週金曜日を「カシミールへの連帯の日」として、国民に対して抗議の姿勢を示すよう呼びかけた。

2 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 邦人被害事案

なし。

(2) 銃器使用犯罪

本期間においても、前期と同様に銃器を使用した犯罪及び押収事案が相次ぎ、特に主要道路から離れた路地等人通りが少ない場所においては、その危険性が高い。主要都市部においても、銃器を使用した強盗事件（ガンポイント）や侵入強盗事件が散発的に発生している。

8月13日、イスラマバード市内各地で、独立記念日の祝砲とみられる発砲により、複数の死傷者が発生した。イスラマバード警察では、同市内における祝砲を禁止しており、厳重に取り締まると発表している。

治安当局は継続的な銃器の取締りに取り組んではいるものの、違法に所持し摘発されるケースが後を絶たず、違法銃器の蔓延が問題となっている。

(3) 招き入れ型侵入犯罪

イスラマバードは富裕層が多く居住しており、各家屋には警備員やドライバー等の使用人を雇っている家主が多いが、これら使用人が犯罪者側と共謀し家屋内に招き入れて犯罪に荷担する事件が時折発生している。2017年9月には、ラーワルピンディー市内において、中国人が帰宅途中に金品を強奪され、警察による捜査の結果、同中国人の元運転手が事件を手引きしていたことが判明した。また、当地警察は、ガス、電気会社の職員を装った強盗が、家主の不在間に機器の点検目的を装い家屋に進入し、金品を盗む事件が増加傾向にあるとの注意喚起を出しているため、在宅の有無にかかわらず施錠を行うほか、使用人、警備員等への指導を徹底する必要がある。

(4) 名誉殺人

当地では、親が認めない相手との交際などで、家族の名誉を汚したとして女性又はその交際相手が殺害される名誉殺人が跡を絶たない。パキスタンの保守的なイスラム社会では、毎年数百人の女性が名誉殺人の犠牲になっており、今期も凄惨な殺害事件が発生している。

(5) 性犯罪及び虐待

当地では、強姦を含む性犯罪及び虐待事件が頻繁に報道され、その発生件数は多いと言える。同種事件の被害者は、二次被害のおそれ等から警察に届け出ないことも少なくなく、被害実態は正確に把握できない。

(6) その他

本期間においても連日、不法な銃器・爆発物・薬物・酒類の押収事案が報じられた。これらの事案は、厳重な警戒下にあるイスラマバード市内においても、テロ発生の可能性は依然として排除できないことを示している。

今期は、当地の空港で勤務する連邦捜査局（F I A）職員3名が、旅客のパスポートやID等の個人情報を闇市場で2,000～3,000ルピーほどで売買していたことが判明した。盗用された個人情報は携帯電話番号の違法登録に利用されたとみられる。

3 2018年10月から2019年9月までのテロ事件発生状況

【2018年】

10月	28件, 死者	28名, 負傷者	52名
11月	20件, 死者	64名, 負傷者	80名
12月	11件, 死者	18名, 負傷者	32名

【2019年】

1月	26件, 死者	30名, 負傷者	69名
2月	21件, 死者	22名, 負傷者	47名
3月	21件, 死者	26名, 負傷者	73名
4月	23件, 死者	54名, 負傷者	97名
5月	18件, 死者	49名, 負傷者	87名
6月	25件, 死者	33名, 負傷者	55名
7月	20件, 死者	38名, 負傷者	111名
8月	21件, 死者	31名, 負傷者	83名
9月	12件, 死者	19名, 負傷者	27名

(出典：パキスタン平和研究所)

4 安全を考える上で参考となる事件等（報道ベース）

*前項までの重複あり

- 6月29日午後2時頃、KP州ペシャワール・グルバハール地域の警察署付近において、Sartaj Khan アワミ国民党（ANP）ペシャワール支部長が銃殺された。現場からは、ピストルの薬莖2発が発見された。犯人は現場から逃走した。
- 7月3日午前10時頃、ラホール国際空港において、狙撃犯2名が、標的1名及びタクシー運転手1名を銃殺し、3名を負傷させた。犯人は、全てのセキュリティ・チェックを突破して武器を到着ラウンジまで持ち込み、乗客らが出てくると同時に、銃を乱射した。殺害されたZain Aliは、2017年3月のBabar Butt PPP幹部殺害に関与したとして逮捕されたが、2週間後に保釈されており、本件は同人を狙った犯行とみられている。警察により空港治安部隊（ASF）に引き渡された犯人は、前科があり、Zain Ali殺害のために、ドバイに在住するPPP幹部の兄弟に雇われていたことが判明した。
- 7月21日午前、KP州デラ・イスマイル・カーン（Dera Ismail Khan）において、TTPによる自爆を含む複合攻撃が発生、オートバイ2台に分乗したテロリスト4人がコトラ（kotla）地区の警察検問所に対して発砲し警察官2人が死亡、その後、この襲撃の死傷者を搬送中の病院の入口で女性1人が自爆し、警察官4人と民間人4人の計8人が死亡した。一連のテロ事件において、10人が死亡、30人以上が負傷した。
- 7月31日、パキスタン・タリバン運動（TTP）は、KP州北ワジリスタン部族郡ミランシャーにおいて、ウルドゥー語のビラを配布し、同部族郡住民らに対して、大音量で音楽をかけること、ポリオ予防ワクチンの接種及び男性の付き添い無しでの女性の外出を禁じるとともに、違反すれば最悪の結果に直面するだろうと警告した。また、「タリバンは過去にも同様の声明を数回発出しているが、これまで聞き流されてきた。しかし今回我々は、タリバンの命令に違反したものを達を処罰する予定だ」と述べた。
- 8月8日夜、KP州ペシャワールPaharipuraにおいて、身元不明の狙撃犯らが警察のライダーチームを銃撃し、警察官1人が死亡、1名が負傷した。同州ペシャワールSultan Colony付近では、オートバイに乗った身元不明の狙撃犯2名が巡回中の警官らを銃撃し、警官1人が死亡、1名が重傷を負った。
- 8月18日、KP州Upper DirのGomadand地域において、平和委員会（Aman Lashkar）元メンバーらが乗車していた車両が、道路脇に仕掛けられた遠隔操作爆弾により攻撃され、同元メンバー4人が死亡、20名が負傷した。地元の情報筋によると、同人らは過去数年間にわたり、ミリタントから殺害の脅迫を受けていた。
- 8月21日夜、イスラマバード市内I-11地区において、警察検問所に対する銃撃テロが発生、警察官2人が死亡、1人が負傷した。

- 8月23日深夜、KP州デラ・イスマイル・カーン Daraban 地域において、オートバイに乗った10～12名のミリタント・グループが警察検問所を襲撃し、通行人2名が死亡、2名が負傷した。
- 9月3日午前9時頃、KP州バジヨール部族郡 Mamaond 郡 (tehsil) Dabar 地域において、遠隔操作爆弾が爆発し、標的にされた民間人1名が死亡した。同人は、著名な宗教指導者の息子である模様。

5 誘拐・脅迫事件発生情報

当地では、パキスタン人が誘拐される又は誘拐後に殺害されて発見される事件が頻繁に発生している。誘拐・脅迫事件の背景としては、テロ組織による、誘拐事件を利用した政府等への身代金等の要求又は資金稼ぎを目的として犯行に及ぶケースの他、一般犯罪者が、強姦等の性犯罪や身代金目的で行うケースがある。このような誘拐事件は、解決までに多大な労力・時間を要すると共に、誘拐された被害者が殺害される可能性もあることから、事件に遭わないための安全対策が重要である。

また、今期は女性や子供が性犯罪目的で誘拐される事件が多く報道された。8月中旬には、パンジャブ州カスールにおいて、警察の誘拐事件への対応に不満を持った地元住民が、抗議のため警察周辺を包囲し、パンジャブ州警察長官が事態の收拾に当たり、州知事が声明を出すなど、誘拐事件に対する初動捜査のあり方などが見直される機会となった。

6 日本企業の安全に関わる諸問題

これまでのところ、邦人及び日系企業に対する脅威情報には接していないものの、2017年5月にはクエッタにおいて中国人の誘拐・殺害事件が発生したほか、同年7月にも、カラチ市内の幹線道路において中国人技術者を対象とした爆発事件が発生するなど、外国人が、事件に巻き込まれるケースも発生している。

活動地域の最新の治安・安全情報の入手を欠かさず、安全を第一に考えた行動方針を定め、まずは事件に遭遇しないための対策を講じるとともに、万が一の事態を想定した具体的な警備・連絡体制を確立することが重要である。

また、当国政府の政策として、外国人の入域を制限している地域が国内各地に存在し、そのような地域に政府からの事前の許可を得ず（又は事前通報をせず）入域した場合には、現地治安当局による安全対策がなされないばかりか、速やかな退去を命ぜられ、また犯罪に巻き込まれた際に通常の警察活動が期待できない場合があるので、当国政府の規定に従い、事前に然るべき手続きを行うことが必要である。なお、手続きを行ったにもかかわらず、政府からの入域許可が得られない場合には、安全上の問題が生じる可能性があるため、当該地域への入域は控えることが望ましい。

(以上)